

一 社会変革の主エンジンとしての市民 一

少子高齢化、税収減少など問題山積の趨勢の中で、「行政だけでなく市民、NPO、企業、専門家などの多数の参加者が協力して初めて大きな目標を達成することができる」ことを考えると、この動きのカギを握っている主プレーヤーは、やはり参加する市民である。

これまでの振り返り

1 ソーシャルデザインセンターの理念を共有する

(1) ゴールを共有する 一 「こうなったらいいなと思う 10 年後の地域の姿」

例

- 多摩区の魅力が共有されるまちへ
- 多世代がつながり、交流が盛んになるまちへ
- 健康長寿をまっとうできるまちへ
- SDGs (Sustainable Development Goals)

国連で 2030 年にむけて世界が合意した「持続可能な開発目標」

【世界を変えるための 17 の指標】のうち少しでも達成できるまちへ

※ 各委員ベストと思うビジョンを次会迄に提出する。その中より互選で 3 つを選び出す

(2) 「行政は孵化装置はつくるが、生まれた後は市民が行う」というコンセプトを共有する
資金調達も含めて、コミュニティデザインは市民が自らやる（行政等と協力は要る）。

(3) ゴールへたどり着くための方法を共有する

① 【やる前】なぜそれをやるのかを共有

何かやる場合、なぜそれをやるのか、なぜそれを優先するのかを、根拠（事実・データ・調査）と論拠から比較衡量する。また、その結果を「地域課題一覧表」等の形で課題をまとめ、暫時修正追加も行き、共有する。

② 【やった後】評価システムの共有

何かやった後の評価、どうゆう効果があったのかを事実（データ）から検証する。
やる前に最初から結果をどのように評価するか設計し決め、共有しておく。

③ 【ノウハウの保全】後で獲得した知恵をすぐに生かせるようにする

継続活動の中で、その効果を最大化し、ノウハウの保全につながる指針をもつ。

④ 【チームワークの共有】自分の強みを生かす

自分の長所を相互作用として集団のアウトプット向上につなげる。

各自の強みを発揮することを通じて、チームワークを発揮する。

(4) 結果を共有する

これからのコミュニティ活動は結果を求められる（ただやることに意義を見つける活動に
終止符を打つ）

そのためには、次のコミュニティ資本（資源）3 要素の相互作用を高める

① ヒト 一 担い手（主体）

② モノ 一 場所、コミュニティデザインの仕組み、考え方・やり方（理論技法）
情報管理、ノウハウ管理など（場所は使えるところがある）

③ カネ — 必要資金の手当て

- I. 孵化（インキュベーション）段階では、企画課が予算を引っ張ってくる
- II. 生まれた後の段階では、自ら必要資金を調達する

2 具体的な取り組み内容

※「基本的考え方」で示された次の基本的機能を踏まえ具体的な取組内容を検討

- (1) 人や団体・企業、資源・活動をつなぐコーディネート機能とプロデュース機能
- (2) 支援のニーズ（活動支援、資金助成、相談情報収集）とメニューの効果的なマッチング
- (3) 地域課題の解決を目指した社会実験の展開
- (4) 地域からの視点や市民の立場に立って、助言や専門的知識活かした技術的支援、課題提起などを行う機能
- (5) 地域の担い手や社会的起業家などを育成する
- (6) 「まちの広場」への支援
- (7) 地域メディアやソーシャルメディアを活用した情報の受発信
- (8) 新たな参加、交流のきっかけづくり
- (9) 各区の特性に応じて必要だとされる機能

（具体的な取組内容案）

●中心となる人的資産を増やし育てる

- ①様々な世代を呼び込む、②ノウハウをもつ人材を確保する、③自ら成長のための研修会を行う、④インフルエンサーに自らなり、またつくり出す

●情報の発信・配信やデータ・ノウハウの蓄積・利用についてのルールを制定する

●データや調査等から比較衡量し抽出した課題や実行結果の評価を整理し、一覧表等にして、ウェブ上などで共有する

3 その他

- ◎ 議論のルールについて補足説明
- ◎ 合意と合意形成（コンセンサス・ビルディング）について補足説明
- ◎ 提案内容

時代を画する今回の SDC プロジェクトにおいて、担い手と期待される主体は、今までの自治会・まち協・市民活動等では必ずしも現れる必要がなかった人的資産であり、その育成を急務とするモデル創出でもある

(1) 委員スタッフの増員

- ① SDC を運営するための様々なノウハウをもつ人材を増員する
- ② 様々な世代を増員する

(2) 委員スタッフの育成

- ① 自らを育成するための研修会・勉強会を行う
- ② SDC 活動に共鳴を与えるインフルエンサーの育成する

以上

【資料】

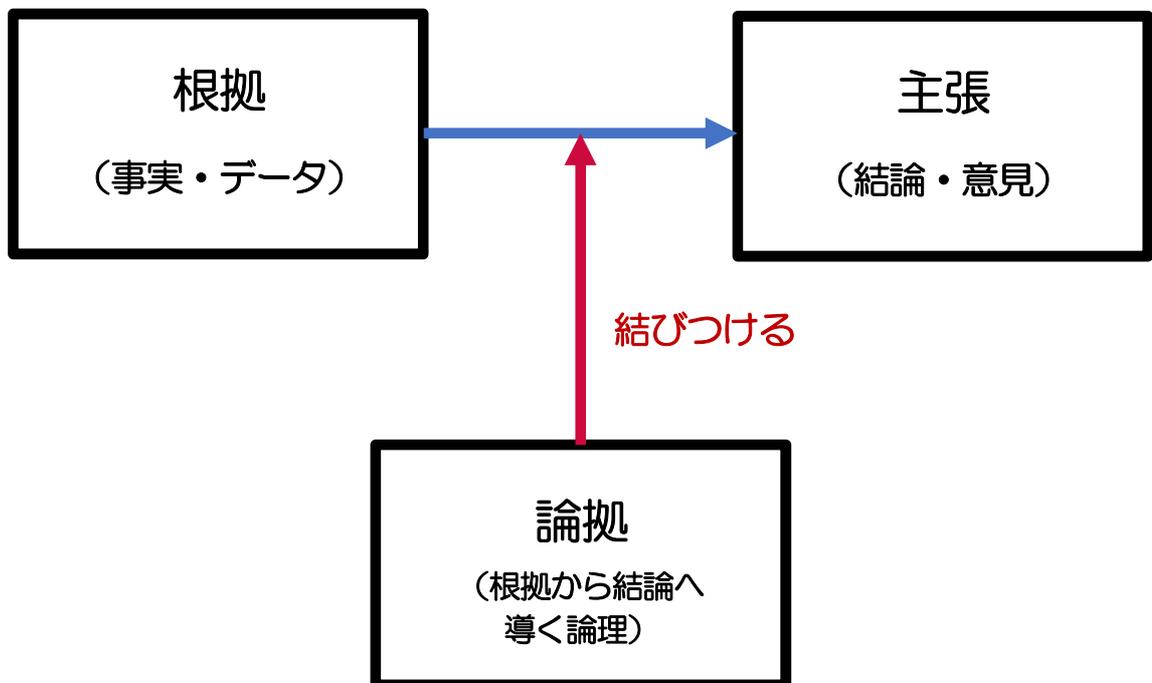
A. コレクティブインパクトとは何か（ジョン・カニア、マーク・クラマーの論文より）
「異なるセクターから集まった重要な参加プレーヤーのたちのグループが、特定の社会課題の解決のため、共通の議題に対して行う約束」

B. コレクティブインパクト（集団の影響力）の5要素

- ① 共通の課題・プログラム
変化のビジョンを共有し、解決に向けて共同のアプローチをとる
- ② 共通の評価システム
成功の評価・報告方法を定義する、全員共通の厳選した測定項目に合意する
- ③ 相互に補強しあう活動（チームワーク）
多様な利害関係者が相互に補強しあう活動にコミットし、各自が最も力を発揮できる分野（強み）に集中する
- ④ 定期的なコミュニケーション
全てのプレーヤーは信頼関係の構築や共通目標の調整のために、頻繁かつ構造化されたコミュニケーションに参加する
- ⑤ 活動に特化した「支柱」となるサポート
「別建てで資金を調達する独立した専任スタッフ、プロジェクトの支柱をもつ」

C. 議論（話し合い）のルール

（トゥールミンの議論モデルより）



D. SDGs (Sustainable Development Goals)



1. 貧困をなくそう
あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



4. 質の高い教育をみんなに
すべての人に包摂的(※)かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



2. 飢餓をゼロに
飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



5. ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る



3. すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



6. 安全な水とトイレを世界中に
すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する



7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



10. 人や国の不平等をなくそう
国内および国家間の格差を是正する



8. 働きがいも経済成長も
すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する



11. 住み続けられるまちづくりを
都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする



9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る



12. つくる責任 つかう責任
持続可能な消費と生産のパターンを確保する



13. 気候変動に具体的な対策を
気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



16. 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する



14. 海の豊かさを守ろう
海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する



17. パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



15. 陸の豊かさを守ろう
陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る